

らつたならば佐々木君の日本經濟地理郷土研究的地誌が出来上るであらうと考へる。予も少閑を得てどこか一ヶ村かいてみて送つてみやうかとも思ふ。(下)

雜報

○湯村温泉全景

湯村温泉(兵庫縣美方郡)は山陰線濱坂

驛の東南一〇キロ、岸田川の支流春來川の溪谷に在る。附近の地質は主として黒雲母花崗岩から成り、春來川の川底には第三紀の礫岩層が露はれる。温泉は此花崗岩を貫き略東西に近い方向に走る幅三〇米以上に及ぶ石英粗面岩の大岩脈と花崗岩との接觸部の裂罅から湧出する。此事實は接觸部の岩石が噴氣作用を蒙り且つ攝氏九十五度もある荒湯、井筒屋内湯及温泉浴場の泉源は岩脈の北側と花崗岩との接觸部との方向に並び又三好屋の微温泉は岩脈の南側から湧出してゐることから明かである。此熱泉は噴氣を伴ひ地熱利用の試験も行つて見たい氣がする。入湯用には自然冷却で適當に調節してゐる。泉質は無色、透明、弱アルカリ性で僅微の硫化水素臭がある。湯村は他の山陰温泉に比して交通不便のため其發展は一步遅れてゐるが何處までも他の遊覽温泉に對して保養温泉として存続せしめ度い。それは其泉質の優れた點と未だ野趣豊かであつて都人士の俗腸を洗ふに適好な温泉であるからである。新樹の蕪りいや高い今日此頃、春來川の潺々たる清流を聴

きつゝ出湯に浸り乍ら温泉情緒を味ふのも亦一興である。寫眞は清正公山公園から瞰下した湯村温泉全景である。

○アメリカ合衆國の空港

最近五年間アメリカ各都

市は適當なる航空終點の必要を痛感し各商業會議所、ロータリークラブ等は更に多くの好き空港建設の運動を怠らず、現今にて既に千六百餘の空港が出来、其中殆ど三百は中途臨時着陸場として官設のもの、他の三百は軍隊の使用の爲め、殘りの一千の空港は各都市用である、其増加の割合は毎月十乃至十二の割合で増加するので、建設中のものを加へると三千にも達するが、いつになつたら結末がつか見當がつかない小都市と雖も之を急がば他の都市を凌駕しようといふ競争があるからである。

従つて空港に對する投資は幾億弗に上つた、大都市の必要に應ずる新式の空港は數百萬弗をかけないと出来ない、ロスアンゼルス空港は三百萬弗をかけて完成しない、ニューヨークの新空港フワイドペンネットフィールドは既に二百五十萬弗を費し只今は追加支出中である、従つて大都市と雖も容易に之の公設が出来ないから、ワシントンやピッツバークの如き私立商業空港を持つに止まつてゐる。

空港の撰定條件は、濃霧の惧なきこと、悪氣流の惧なきこと、風向、必要なる廣さ、二百五十英町以上、敷地の形狀、交通路との關係、敷地附近の發展、敷地擴張の可能性、大航路との關係、人口中心よりの距離等の各種の條件によつて定

めねばならぬ、但し現在米國に一千エーカー以上の空港はない、五百エーカー以上のものが十一、ボストンの空港は百六十エーカーで狹隘を感じ、サンフランシスコのミルスフィールドは百七十英町しかない、さうして桑港の中心から十三哩も離れてゐる、これもあまり離れると飛行でいくら早く飛んでゐても、何にもならぬことになる恐がある、だから市に接近するがよいとしても、地價が高かければ買上が出来ず、地形が不幸にして平坦でない場合には何とも致方がない、多くの大都市の中心に近い所で、四五百エーカーの平地をうることは、米國に於ても容易なことではない、相當の面積がまだ空いて居ても、之を空港とせやうとすれば其地價は殆ど手がつけられぬ程に高くなる。

そこで市から十五哩乃至二十マイルを隔てた所に大主要空港をおき、その補助港を市の中心に近い所に設備しやうとする傾向が発生した、さうしてこの間に航空定期タキシーを設けること、サンフランシスコとオークランド間のやうにするのである。

空港の芝生、上水、下水、電気、附屬自動車部、夜間設備格納庫、ホテル、修理場、飛行學校、防火設備、ラヂオ設備等々數へ来れば空港に要する合理的設備の費用は大きい、港湾の設備が一國産業の發達に注目されるやうに今は空港建造の主要な時代になつてきた。

これを我國の航空の發達に比して先進國のいかにこの方面に活動してゐるかを明にすることは、決して無用ではなから

うと考へる。(F)

○滿洲の忽布

大正七年北海道から、滿鐵公主嶺農事試驗場が忽布苗を輸入した、北滿に於て避難のロシア人がチエツク國ザーツ種を東支沿線に栽培したものもあつたが、出兵當時シホタ山中に自生のホップを發見したので、いよ／＼滿洲にホップが適することが明になつた、研究の結果、東支鐵道東部沿線が好地であつて、勞働力が安いから見込がつくやうになつて、滿鐵の後援で本邦人濱口由次郎氏は東部線一面坡で試作をはじめ、又哈爾濱郊外や、横道河子で邦人のホップ園が出来だした。

日本でのホップの需要は年額五百萬圓の多きに達する、しかし内地では開花期に風がつよく濕氣が多きにすぎて栽培ができぬ。北海道や長野縣で大に新種をつくることに研究中である、従つて年々歐米から輸入を仰ぐ現状であるが、北滿では栽培事情がよく伴はつてゐるので、既に一面坡の製品はハルビンビール會社へ供給されてゐる、今後數年ならずして滿洲の良産物となるであらう、ホップはビールのみでなく、パンや菓子製造に必要であり、其下等品を風呂に入れるとよくきくといふことである、滿洲で一ヘクタールの農産物収入をみると、大豆は三〇圓、高粱は二〇圓、粟四五圓、玉蜀黍二九圓、小麥五七圓、水稻六七圓、陸稻四五圓でいづれもその七割前後の支出を必要とするから、利益としては大豆一ヘクタールの産で八圓三十錢、米で四十圓内外にすぎない。しかし

ホップを一ヘクターつくと八百二十六圓からの賣上があつて、支出金五八〇圓をさしひいても二百四十五圓の利益がある。利率からみると水稲で四〇%の利廻であるが、ホップは四二%である。

ホップの外に亜麻をつくと收入百七十七圓に達し、收益五十二圓利廻り四一%になる。

さうしたわけで滿洲農作物ではホップが第一位の利益農産品であるといふ、しかしホップはその植物學的性質上、栽培後兩三年は收穫がない、投下資本が回收出来ないのみでなく其栽培には相當多額の資金の外専門的の技能を要するので鮮人や華人には不向である、この點に於て北滿に於ける日本人農業者に好適の企業である、但し土地借入事實上困難があるから、今のところ華人と共營するか、又は華人の名義で借地することを要する。

質疑應答

問。世界の小麦産出の状況を問ふ。

答。最近世界に於ける小麦の増加と同時に需要の減退とは相伴つて小麦價格の暴落を來たし、延ひて世界農業の恐慌の一因となつた、蓋し最近世界の小麦の産額は四三億乃至四七億ブツセルであつて、戦前に比して一割乃至二割の増産である、米國とロシアの八億ブツセルが最大で、加奈陀、アルゼ

ンチン、印度及濠洲がこれにつぐ小麦産地である、中にも南北アメリカと濠洲とで、常に世界産額の四割をしめるといふ勢である。今戦後五箇年平均及最近の主要各國小麦産額をしるせば左の如くである。

戦後五ヶ年平均 一九二八年

アメリカ	八四、五、〇〇〇ブツセル	八〇、八、〇〇〇
ロシア	四九、三、〇〇〇	八〇、〇〇〇
フランス	二九、七、〇〇〇	三九、六、〇〇〇
カナダ	三六、四、〇〇〇	二九、六、〇〇〇
インド	三三、三、〇〇〇	三二、五、〇〇〇
アルゼンチン	三〇、三、〇〇〇	一五、一、五〇〇
イタリ	一九、八、〇〇〇	二〇、六、〇〇〇
スペイン	一四、四、〇〇〇	一四、三、〇〇〇
オーストラリア	一三、五、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇
ドイツ	九、七、〇〇〇	一三、〇、〇〇〇
ルーマニア	八、七、〇〇〇	九、七、〇〇〇
ユーゴスラヴィヤ	五、七、〇〇〇	四、九、〇〇〇

以上の各國はその重なるもので、我國の如きは三八、八七二、〇〇〇ブツセルを産し、印度の十分一内外しか出ない、さうして内地消費が多い。

世界小麦の收穫面積は略々三億千萬エーカーで戦前よりも約一割三分方擴張された、ロシアの作付は近頃特に大きくなつた、但し露、米、亞、濠等土地の廣い所は粗農だから其反